

「象牙取引規制に関する有識者会議」報告書【概要】

象牙取引に関する現状

- 象牙の国際取引の禁止後も密猟が後を絶たずゾウの個体数が減少(南部アフリカ地域では安定した個体数が生息)
- 世界の主要国で象牙の国内取引を禁止する動きが拡大、**国は2018年に法改正し取引管理を厳格化**
- 日本では象牙は古くから利用されてきた(都は「江戸象牙」を伝統工芸品に指定)が、**市場規模は減少傾向(法改正により象牙取扱事業者数も大幅減)**

象牙取引を巡る課題

日本の取引制度に対する問題提起

- **ワシントン条約締約国会議での指摘**
 - ・ 「日本を含む全ての国に市場閉鎖を求める」提案(否決)
 - ・ 「自国市場が**密猟・違法取引に関与しないことを徹底する取組を報告**すること」が全会一致で合意
- **海外から東京都への声**
 - ・ ニューヨーク市長、環境団体等から「東京2020大会を契機に日本(東京)の象牙取引を禁止すべき」等の声あり
 - ※ 一方で「象牙取引を維持すべき」との声あり
- **有識者会議における指摘**
 - ・ カットピース・製品は登録対象外であり**トレーサビリティが確保できていない**こと等が問題
 - ・ **現地でのゾウの獣害問題に留意**し、直接的に人とゾウとの共存や密猟防止に貢献することも必要 等

日本からの違法な海外持出

- **象牙の違法な海外持出**
 - ・ **2011～2016年に2.4tが押収、近年も報告事例あり**
 - ・ 違法輸出の多くの部分が中国向け
- **象牙取扱事業者や顧客の認識**
 - ・ 都内事業者アンケートで、象牙取扱事業者や顧客に「**海外持出禁止**」の認識を深める余地があることが判明
 - ※ 73%の事業者が「販売の際に海外に持ち出さないことを確認した」と回答するなど、大多数の事業者は適切に対応
- **有識者会議における指摘**
 - ・ **インバウンド回復への備え**が必要
 - ・ 日本からの海外持出は、ブラックマーケット活性化による密猟誘発のリスク 等

象牙を販売・使用している立場の声

- 東京象牙美術工芸協同組合：法令順守と正しい情報発信が必要。登録事業者が扱う象牙は密猟に寄与しない。
- 象牙使用芸術家：象牙でなくてもよいが、環境にやさしい素晴らしい素材。象牙を大切に使っていきたい。
- 登録事業者アンケート：象牙文化が無くなるのは残念。しっかり管理し、象牙文化が継承できると良い。

象牙取引の適正化に向けた都の対策

新たな対策の必要性とその方向

- 違法な海外持出や、日本市場が違法象牙の隠れ蓑になること等が懸念されている中、象牙取引の管理が効果的に行われ、違法な象牙が厳格に排除できていることを挙証できない現状は問題
- 象牙製品等の**トレーサビリティ向上**を図ること等により、**国外持出防止を徹底**するとともに、日本の市場に違法な象牙の入り込む余地がないことを世界に示していくことが必要

会議設置後の都の取組

- 東京2020大会に先立ち、象牙取引規制の適正化や都の取組への協力等を要望(知事から環境大臣へ直接要請)
- 有識者会議の議論を踏まえ、東京2020大会を契機に、国等と連携した「海外持出防止」の取組を実施
 - ・ 都内象牙取扱事業者に顧客への意思確認等を直接要請し、多くの事業者が適切に対応(アンケート結果より)
 - ・ 訪日した選手・関係者への注意喚起や、多言語コンテンツによる国内外への発信を実施

象牙取引適正化に向けた対策（有識者会議から都への提言）

- 大量の象牙在庫を抱える日本は、日本市場が密猟や違法取引に寄与していないことを国際社会に示していく責任があり、多くの象牙取扱事業者が登録されている東京都は、象牙取引適正化に向けた取組を推進すべき

(1) 象牙取引管理の一層の厳格化に向けた、法に基づく全国的な取組についての**国への働きかけ**

- ・ 取締りの実効性の向上等の**水際対策の徹底** ・ 取引監視体制の拡充等の**法を確実に履行**する対策の実施
- ・ 象牙製品の管理強化等の国内取引の**トレーサビリティ向上策**の実施 ・ **国内外に向けた広報・啓発**の一層の強化

(2) 東京2020大会を契機とした**国外持出防止の取組**のインバウンド復活に備えた継続

(3) **象牙に関する文化・芸術を守りつつ、密猟や違法取引への寄与を防ぐ**ための条例又はその他の効果的方法の検討